

洋画の字幕翻訳の特徴とその類型

小林 敏彦

ABSTRACT

洋画を活用して授業する場合、字幕の存在は無視できないものであり、その活用を論じる以前に教える側が字幕自体の本質を見極め、承知していることが望ましい。本研究は、35本の洋画ビデオに現われる字幕を分析の対象とし、英語の台詞と日本語の字幕の比較を行い字幕翻訳の特徴を探り、類型化を試みた。まず字幕が原文の台詞の内容をどのくらい忠実に伝えているかに着目し、伝達情報量の増減で大別し、更に性質に応じて細分化した結果、18の類型が特定できた。字幕スペースの制約から原文の情報が減じた“REDUCTION”だけではなく、明瞭化のために情報を付加した“ADDITION”の例も見つかった。REDUCTIONは、減じられた情報量の程度に応じて、simplification(簡略)とomission(省略)に分類され、さらに前者はapproximation(類似)、generalization(一般化)、integration(統合)に細分化した。後者は、品詞や形態に応じて、subject、verb、object、adjective or adjectival phrase、adverb or adverbial phrase、idiomatic phrase、example、interjection、sentenceごとに分類した。ADDITIONについては、その機能としてclarification(明確化)とvariation(変化)に分類し、前者はさらにcontextualization(文脈の明示)、compensation(補足)、specification(指示物の明示)、emphasis(強調)、conversion(単位変換)に分類した。字幕の本質を実証的に分析し原文の英文と日本語字幕との比較を行い、その特徴に応じて類型化を試みることによって、学習者及び教育者の双方にとって有益な資料を提供することが本研究の目的である。

1. INTRODUCTION

洋画(台詞が英語の映画)は若者のポップアートのひとつであり、洋楽と共に英語学習の開始以前にほとんどの日本語母語話者¹⁾が接する身近な存在である。古今のレンタル・ビデオ業の隆盛や多種多様な洋画ソフト制作と普

及を見ても、日本の英語学習者にとって最も身近な英語の音声媒体と言っても過言ではない。

外国語としての英語教育 (TEFL) では、学習者を英字新聞、英文雑誌、英語ニュース、テレビ番組、映画などの実物教材 (authentic material)²⁾ に触れさせることが奨励されている。マス・メディアや翻訳技術の発達で、一部の専門性の高い文献や資料、また特定分野の嗜好者に向けられた情報以外は、日本語の活字媒体や放送で収集が可能である。ゆえに、日本国内で英語を媒体とする情報源にアクセスする動機は、必要に迫られた情報収集よりも英語学習を意識した場合の方がむしろ多いように思われる。他方、英語媒体の中でも洋画は、英語学習が目的ではなく娯楽として鑑賞する者がほとんどである。世界的傾向であるが、日本では、ハリウッド系メジャー映画会社³⁾ 制作の作品の人气が邦画を圧倒している。⁴⁾

字幕の成立

日本語母語話者が英語媒体である洋画を抵抗なく受け入れ鑑賞可能なのは日本語の字幕 (subtitle) が介在するためである。字幕は原語の理解が困難な鑑賞者の便宜を計るものであるが、清水 (1987) によると 1930 年に米国で生まれ、日本では 1931 年に故田村幸彦氏が「モロッコ」という作品に日本語字幕を付けたのが最初である。日本で公開されている洋画や市販ビデオソフトのほぼ全てに日本語字幕が付けられており、字幕を見ながら洋画を楽しむのが一般的な鑑賞形態として定着しているが、実はこれは世界共通の鑑賞形態ではない。戸田 (1994) によると、世界の国々で外国映画を上映する場合には、ほとんどが吹き替え (dubbing) であるという。彼女はその理由を以下のように分析する。

画面で俳優が自分の声で、その国のことばでせりふをしゃべっている。これもリアリティーをつくるのにかかせないものである。そこをすり替えてほしくないと思う日本の観客は、それだけで本物指向が強く、リアリティーに敏感だということになろう。(p.9)

このように字幕を見ながら洋画を楽しむ方法は日本で根付いており、字幕自体が画像の一部として溶け込んでいる。窪田（2000）は字幕の存在意義について次のように述べている。

外国の映画を見るときには字幕や吹き替えは不可欠なのであるにもかかわらず、その存在は水や空気のように意識されていないのが現状である。一般的に観客が字幕を意識するのは、俳優の台詞や場面と字幕の内容にズレが生じたときや、白ヌキの字幕が背景の白色と混ざってよく読めないときぐらいであろう。だから、観客は映画が終わってから、字幕の是非に関心を示すことはほとんどないといっていい。しかし、観客がそれへの意識が低いからといって、字幕の存在価値は決して失われるものではなからう。（p.5）

同様に太田（1998）は字幕の存在をリズムと関連させ以下のように述べている。

外国映画にあって、字幕が画面構成の要素になるとすれば、言葉のリズムが必要になってくる。それがないと、映像も音楽も気分になれない。翻訳がどれほど原文に忠実であっても、画面の中の登場人物が話し終っているのに、まだ字幕が続いていたとしたら、そのシーンの緊張感は、まったく無くなってしまっただろう。字幕のタイミングがセリフに合って、はじめて映像とリズムになるからである。映画は流れるようなリズムがないと退屈してしまう。映像、セリフ、音、間、音楽、そして字幕、そうしたリズムのひとつひとつがドラマを盛り上げていくのだ。どれひとつが欠けてもいけない。（p.79）

字幕が画像に一体化したスクリーンに慣れてしまった日本語母語話者が、英語圏の映画館で字幕のない画面を見れば何か物足りない印象を受けるだろう。字幕を追う習慣が身に付いている者は映画館での大画面のどこに目を置いたらいいのか戸惑うかも知れない。字幕はそれほど日本語母語話者にとって不可欠なものである。

字幕の文法

一般的に、洋画の中で話されている会話の内容を全て知りたいと願うのは当然である。しかし、英語が理解できる者が日本語の字幕を見ればわかるように、字幕はオリジナルの台詞を忠実に訳した翻訳 (translation) ではない。時には突拍子もない訳や詳細が割愛されている場合もある。これは書き言葉 (written language) である字幕と話し言葉 (spoken language) である台詞という異なる伝達媒体 (medium) の間に生じる物理的制約に起因する。このあたりの事情については、清水 (1992) が以下のように述べている。

ことばは口でしゃべるよりも眼で読むほうが時間がかかる。スーパー字幕はしゃべられたせりふを文字になおして読ませるのだから、もとのせりふをそのまま字幕にしたのでは、ながくなりすぎて読み切れない。せりふがしゃべられている何秒かの間に読み切れるように、短い字幕をつくらなければならない。わかりやすくいえば、字幕を制限されているのである。(pp.16-17)

字数の制限については観客の反応を見ながら字幕翻訳者の間で長年研究が積み重ねられた結果、前出の「モロッコ」のときには1行13文字だったのが、その後1字ずつ減らされ、現在は、1行10文字で2行まで、時間で言えば基本的に1秒で4文字、5秒で20字という鉄則、または「スーパー字幕の文法」(清水、1992: 65) が生まれた。これ以上の字数だと観客は読め切れず、また映像が隠されてしまうと考えられている。

字幕の一般の翻訳との相違点について清水 (1992) が実例を挙げて詳細に説明しているが、要約すれば以下ようになる。

- 1) 原文を正確に翻訳することではなく、わかりやすい翻訳をすること。
- 2) 翻訳と違い字数の制限があるので、切り捨てや言い替えがよくある。
- 3) 英語の “this” と “that” は日本語の「こそあど」に訳す時は、実際に画像見て確認する必要がある。⁵⁾
- 4) “brother” などの語は兄なのか弟なのか画像見て老若を判断しなければならない時がある。
- 5) 翻訳のように注をつけることができず知恵を絞らなければならない

時がある。

ここで留意すべきなのは1と2の点である。正確さより明瞭さを追及するあまり、切り捨てや言い替えが当然という事情があるのなら、日本語字幕だけで洋画を理解している観客は相当の情報を逃していることになる。この制約のもとで作られる字幕の多くが情報の簡略(simplification)または省略(omission)された産物であり、字幕だけで洋画を理解している観客は多くの情報を逃していることは否定できない。

字幕の信頼性

字幕の助けを借りて洋画を理解する鑑賞法で英語を直接理解して得られる情報量や醍醐味、感動が得られるかは大きな疑問である。日本の映画館で日本語母語話者が沈黙し英語母語話者だけが笑っている場面に居合わせたら、誰しも字幕の信頼性に疑念を持つことだろう。ここで言う信頼性とは、字幕がどのくらい原文の内容と意味を忠実に言い伝えているかという情報伝達の正確さのことである。

日本語字幕に依存している観客の逃す情報量について、岡山(1998)は、文字数の制約のために“I love you.”という台詞が単に「好き」と訳される例をあげ、3/4から2/3の情報量がこぼれていると指摘している。また量的な面だけではなく質的な面についてもいかに字幕だけの洋画理解で観客は損をしているか以下のように説明している。

ちょっと英語に覚えのある方は、その字幕からこぼれた情報にくすつとしたり、覚えのない方でもかなり感のいい方は「あ、今、おもしろい言い方をしたはずだぞ。」と思った経験が一度ならずあるのではないのでしょうか。そうです、そういう字幕から逃れた情報にこそ、映画の味があったり、スパイスがあったりするのです。ところが、字幕スーパーの場合、映倫の規制があったり、5秒で区切るという時間の制約がありますから(それ以上だと間延びして、字幕にテンポが出ない)、なるべく簡便に伝えなければならず、どうしても「おいしい」ところをかつとばさねばならないのです。(p.2)

当然ながら、ラジオや音響テープから発せられる情報と異なり、洋画には画像があるので、たとえ「おいしい」ところを省略されても娯楽作品としては十分鑑賞できる。また、翻訳者の見事な訳のおかげで全く不都合を感じないこともあろう。現に、映画館にはかつての繁栄はないものの、依然観客は集まり、貸ビデオ店の利用者も多い。字幕のまずさが原因で顧客が減ったという話は聞かない。しかしながら、字幕に注意が払われるあまりに、画像を十分に見ていないことも事実である。字幕に依存した鑑賞法では、英語の母語話者が音声と画像の両媒体から受信する情報の総体から比較すると相当量の情報の損失は避けられない。

このような事情であれば、字幕だけで洋画を理解している批評家に適切な作品の評価などは本来期待できないものではないだろうか。西森（1993）は字幕や吹き替えでは、英語の台詞が持つ言外の意味や微妙なニュアンスが伝わらないことを指摘し、無責任な映画評論家について次のように批判している。

英語の台詞やアメリカの社会習慣もわからぬままに、コメディやパロディ英語を「つまらない」とこきおろしてしまう心ない評論家がいるという現実は、大変悲しむべきことです。コメディ映画のほとんどが、日本では劇場公開されずビデオにもならないことがあるのは、真のおもしろさもわからずに酷評を下す評論家が多すぎるために、映画会社やビデオ会社が宣伝が難しいと判断し、リリースを諦めてしまうからです。こうした残念な状況に遭遇するたびに、英語で映画を鑑賞することの大切さを痛感させられます。（pp.7-8）

英語学習を意識する鑑賞者は、一般の鑑賞者とは異なる機能を字幕に見い出している。一般的に、字幕は話の内容を理解する上で不可欠であり、字幕は画面の構成要素のひとつとして受け入れている。彼らにとって原文の台詞は、耳を傾けて神経を集中させ聴く対象ではなく背景の効果音と同様に自然に聞こえてくる音に過ぎない。他方、熱心な英語学習者にとっては、原文と字幕という二つの媒体が常に折り重なって認知される作業である。字幕から

意図的に目をそらし耳を傾ける瞬間もあれば、いつのまにか字幕に釘付けになっていることもある。

字幕の活用

原語で作品を理解することの重要性は確認できたが、これは字幕の存在をまったく無視すべきであるということではない。学習及び教育の現場で、字幕をむしろ積極的に活用すべきと唱える研究報告も多い。窪田（2000）は、ビデオの登場で英語の学習環境が飛躍的に向上したことで字幕の役割が増したとして以下のように主張している。

今は、昔と違って映画鑑賞は一度限りのものではなく、ビデオの登場によって何度も繰り返し見ることができるし、コピーが永久的に保存されることも可能になったのである。これは、映画愛好家にとってはありがたいことで、特に印象に残ったシーンは何度も繰り返して見られるため、シナリオの台詞や字幕を自然に覚えるという付加価値までつくようになった。こうなると、字幕はそれ自体が場面のメッセージを伝える役割を果たしているわけで、ある意味でコミュニケーションの重要な媒介を果たしていることになる。（p.5）

ここで注目すべき点は、繰り返し鑑賞することでシナリオの台詞や字幕が自然に覚えられるという指摘である。外国語よりも母語の方が記憶に定着しやすいのは誰もが経験することである。原文の台詞こそが重要な言語資料であり学習の対象であるわけだが、それを記憶という点において促進させる役割を字幕に見い出せないだろうか。台詞と字幕の違いを意識した箇所ほど記憶のプロセスでの刷り込み（imprinting）が強化され、保持（retention）がより長く継続し、想起（recall）も容易になるのではないかという仮説を立てることも可能ではなかろうか。小張（1996）は、字幕の利点について、学習者が映像、音声、字幕、特に日本語字幕からの記憶力の助長を主張している。ただし、同氏は字幕を見ることで視覚による干渉があるために、ポイントを絞って、音声のみに集中することの困難さも指摘している。

字幕を詩の鑑賞のように学習の対象とすることもまた意味のあることと思わ

れる。岩崎（1996）は、日本語字幕は語数などいろいろな制約があり、通常の翻訳とは一味違った特殊な才能を必要とするもので、おおいに学ぶにたる興味をそそる素材であるとし、オリジナルと日本語字幕を比較し、翻訳者の優れた力を知ることは英語の学習としても有益だと主張している。これは字幕をただの媒体として捉える見方から一步踏み込んで、その翻訳者に感情移入（empathy）することでその制作過程に自らを取り込む疑似体験をすることが英語学習を促進させる可能性を示唆しており、注目に値する。

また、間中（2000）は、字幕が学習者の興味を支える大事な役割を果たしていることを指摘し、特に英語が不得意な学習者にとって映像と一体化することで「英語がわかるかもしれない」（p.56）という気にしてくれると主張している。彼女は高校三年生の授業で台詞の和訳を生徒にさせているが、その学習活動の意義を以下のように述べている。

実際に自分の力で英文台詞を訳してみることで、字幕と英文台詞の違いに気付いてもらうことが目的だった。字幕の短さ、簡潔さ、日本語の巧みさ、そして割愛されている英語の多さとその具体性を感じたならば、自分で訳すことに対して強い興味をもって入れるのではないかと期待した。その場面の字幕を介さず直接理解することができたら、違う楽しみができる。聞くことは難しくても、スクリプトなら手にとってみようかというような英文解釈に対する関心をこの活動を通して持ってもらうのがこの授業のねらいであった。（p.50）

同様に、角山（1995：19-20）は、大学生に日本語字幕作成の過程を体験させ、以下4点の効用を報告している。

- 1）映画をただ楽しむだけではなく英語学習に積極的に活用しようという態度を育てることができる。
- 2）翻訳するにあたって日本語の表現力を磨くことの重要性を認識させることができる。
- 3）字数制限があることで、直訳にこだわりすぎず全体で何が一番大切なメッセージなのかすばやく掴む訓練になる。
- 4）日本語字幕に過度に依存しない積極的な学習態度を身につけることができる。

両者ともリスニング中心とした洋画の活用を超えて、「創作」の要素を学習過程に組み込んでいる点が斬新であり、示唆に富むものである。

研究の動機と目的

日本語母語話者に馴染み深い字幕に関する評論や字幕の扱い方に関する研究報告に比べ、字幕そのものの言語的側面の実証的分析や解明を試みた研究は稀少である。洋画を活用して授業する場合、字幕の存在は無視できないものであり、その活用を論じる以前に字幕の本質を見極め、字幕翻訳のルールやパターンを承知していることは有益ではなからうか。長年の間、字幕翻訳者の間で培われ発達してきたその奥義は一般にはあまり知られておらず、また映画を活用した授業を実践している教育者の中で熟知している方は少数であると思われる。

本研究は、入手した字幕を談話分析の対象とし、字幕翻訳者への問い合わせなどは一切行わず、既存の字幕翻訳例を唯一の分析対象とした。字幕の本質を実証的に分析し原文の英文と日本語字幕との比較を行い、その特徴に応じて類型化を試みることによって、学習者及び教育者の双方にとって有益な資料を提供することを本研究の目的とする。

2. METHOD

2-1. Materials

本研究では、以下表1 (TABLE 1) にある米国のメジャー映画会社制作で日本で上映され、ビデオ化されたクローズド・キャプション⁶⁾付き作品で、著者が実際に授業で使用したことがある35作品の中の全台詞を分析の対象とした。各作品の原題、制作年、監督、ジャンルについては、インターネット上の映画情報サイト⁷⁾から収集した。

TABLE 1

原 題	制作年	監 督	ジ ャ ン ル
1. AIR FORCE ONE	1997	Wolfgang Petersen	Thriller/Action
2. BABE	1995	George Miller	Children's/Comedy/Drama
3. BATMAN & ROBIN	1997	Joel Schumacher	Adventure/Action
4. BEAN	1997	Mel Smith	Comedy
5. BRAVEHEART	1995	Mel Gibson	Action/Adventure/Drama/War/Romance
6. CONTACT	1997	Robert Zemeckis	Drama/Sci-Fi/Romance
7. COURAGE UNDER FIRE	1996	Edward Zwick	Drama/War
8. CRIMSON TIDE	1995	Tony Scott	Action/Drama/Thriller
9. DEEP IMPACT	1998	Mimi Leder	Drama/Sci-Fi/Action
10. DIE HARD 3	1995	John McTiernan	Action/Thriller
11. ERASER	1996	Chuck Russell	Action
12. EXECUTIVE DECISION	1996	Stuart Baird	Action/Adventure/Thriller
13. FORREST GUMP	1994	Robert Zemeckis	Drama/Comedy
14. GHOST	1990	Jerry Zucker	Comedy/Thriller/Romance
15. GOOD WILL HUNTING	1997	Gus Van Sant	Comedy/Drama/Romance
16. HOME ALONE	1990	Chris Columbus	Comedy
17. INDEPENDENCE DAY	1996	Roland Emmerich	Action/Sci-Fi/War
18. J.F.K.	1991	Oliver Stone	Drama/Mystery
19. LEON	1994	Luc Besson	Crime/Action/Drama/Romance/Thriller
20. MEN IN BLACK	1997	Barry Sonnenfeld	Action/Comedy/Sci-Fi
21. MISSION: IMPOSSIBLE	1996	Brian De Palma	Action/Thriller
22. SAVING PRIVATE RYAN	1998	Steven Spielberg	Drama/War
23. SPAWN	1997	Mark A.Z. Dipp	Fantasy/Action
24. STAR WARS I	1999	George Lucas	Sci-Fi/Fantasy/Action/Adventure
25. STAR WARS VI	1983	Richard Marquand	Sci-Fi/Fantasy/Action/Adventure
26. TERMINATOR 2	1991	James Cameron	Action/Sci-Fi
27. THE FUGITIVE	1993	Andrew Davis	Action/Thriller/Drama
28. THE LAST EMPEROR	1987	Bernard Bertolucci	Drama
29. THE NEGOTIATOR	1998	F. Gary Gray	Action/Drama/Thriller
30. TITANIC	1997	James Cameron	Drama/Action/Romance
31. TOP GUN	1986	Tony Scott	Action/Romance/Drama
32. U.S. MARSHALS	1998	Stuart Baird	Action/Thriller
33. UNDER SIEGE 2	1995	Geoff Murphy	Action/Thriller
34. VOLCANO	1997	Mick Jackson	Action/Thriller/Drama
35. 007: Tomorrow Never Dies	1997	Roger Spottiswoode	Action/Adventure

2-2. Procedures & Analysis

洋画の鑑賞する場合、日本では映画館で鑑賞する比率が9%⁸⁾と低く、字幕付きの画面で鑑賞するのは、圧倒的にビデオであることと、また実際の映画

館で字幕を書き留めデータ収集するのは極めて困難であることから、分析の対象はビデオソフトとした。ただし、ビデオソフトで表示される字幕は、映画館で見られる字幕とは同一ではないこともあることを記しておく。

各ビデオはクローズド・キャプション・デコーダーにより日本語と英語を同時に画面に提示させ、原文の台詞と字幕を比較しながら、相違が著しい、または興味深いと主観的に判断された例を書き留め、特徴が見極められてきた段階で、伝えられる情報の増減、機能、明確さ、品詞などあらゆる基準をもとに試行錯誤を繰り返しながら類型化を試みた。

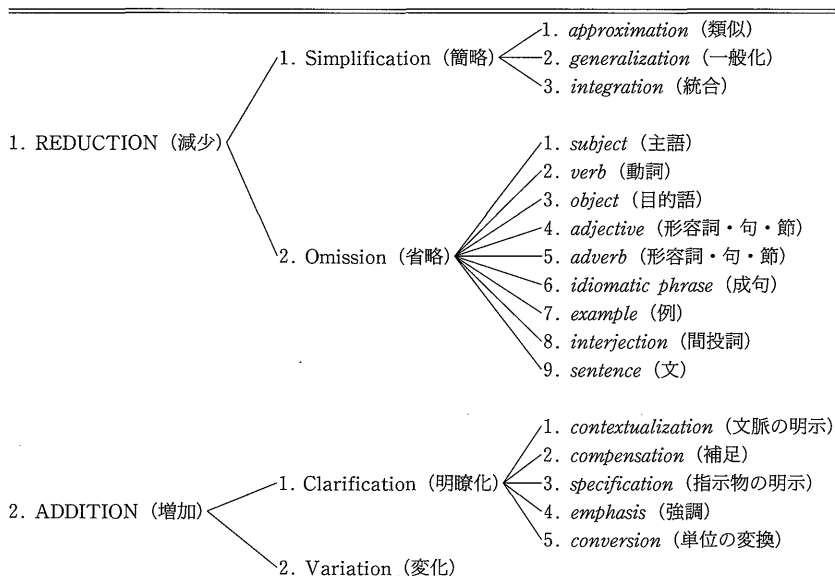
3. RESULTS AND DISCUSSION

分析の結果、原文の台詞が字幕翻訳された時に、一般的に考えられているように情報が減じられるだけではなく、反対に増やされている例も見つかった。前者を“REDUCTION”（減少）、後者を“ADDITION”（増加）とし、情報の増減でまず大別した。情報の量的側面については、あくまでも類型上の基準として着目したのにとどまり、本研究ではデータの質的分析が中心で、統計手法を用いた検証は一切行わなかった。それぞれの範疇はその性質に応じて更に細分化した結果、以下図1 (FIGURE 1)にあるように18の類型に分類することができた。

類型については、該当する台詞の中でも特色のある例を1ないし数例ずつ列挙し、延べ77の台詞を選出し解説を加えた。対象となった原文の台詞とその字幕訳を比較提示しまとめた。台詞は文の比較ではなく、単語や句単位に分割し、それぞれの部分に対応する訳を並列し、「直訳」「意訳」「簡略」「省略」のいずれかをまず提示、次に情報の「増」「減」「同」を記した。

各類型で分類された例文について解説を加えているが、字幕翻訳者に翻訳のプロセスや真意を確認したものではなく、あくまでも今回のデータの分析から導かれた結論を述べている。また、ここで使用されている用語は確立したものではなく、著者が初めて提唱するものであり、その妥当性については今後諸兄の研究者の方々の判断に任せたい。

FIGURE 1



3-1. REDUCTION (減少)

字幕になった時点で情報が減じられた訳例は、具体的な組織、機構、地位などの名称がおおまかな名称に替えられている場合や、固有名詞などが一般的な名称などで置き換えられた“simplification”（簡略）と特定の語句全体が割愛された“omission”（省略）に分類した。

3-1-1. Simplification (簡略)

簡略は、下位語彙が上位語彙⁹⁾に翻訳された“approximation”（類似）と固有名詞を一般名詞または代名詞で置き換えられた“generalization”（一般化）、複文や重文であったり、2文またはそれ以上の単位の台詞が簡潔な1文に訳された“integration”（統合）の3類型に分類した。

3-1-1-1. approximation (類似)

表2のシーンは、隕石落下後の生き残った人類に対して米国大統領が人類の復興を呼びかけ激励する演説の一部である。“skyscrapers”は「摩天楼」または「超高層ビル」のことであるが、原文で“buildings”ではなく下位語彙を使用していることに注目したい。ここでは“even”の意味が含蓄されていると考えるのが適切で、津波の高さ、巨大さを伝えようとする脚本家の意向を尊重し、「高層ビルまでも」という意味を正確に伝えるべきであった。字幕スペースの制約上、2行にすれば何ら問題はなかったはずである。

ただし、字幕翻訳者の判断で「ビル」というカタカナ語が「高い建物」という意味を含んでいると判断したと考えることも可能である。英語の“building”はWebster's New World Dictionary: Third College Edition (1988: 183)の定義によると“anything that is built with walls and a roof, as a house, factory, etc.”となっており、規模の大小を問わずあらゆる建築物を指す。それに対して「ビル」は、岩波国語辞典第五判によると「洋風の高層建築物」(p.1002)と定義されている。ゆえに最終的な判断は、字幕翻訳者に直接聞いて真意を確認しなければならないが、画面でマンハッタンの摩天楼より更に高い波が押し寄せるのを見れば「ビル」では物足りないと感じるだろう。

TABLE 2

TITLE : DEEP IMPACT

DIALOGUE : it washed away farms and towns ... forests and skyscrapers.

SUBTITLE : 農地や町やビルを押し流しました

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 it	φ	省略	減
2 washed away	押し流しました	直訳	同
3 farms and	農地	直訳	同
4 towns	町	直訳	減
5 forests and	φ	省略	減
6 skyscrapers	ビル	簡略	減

表3にある下線部は、相手に攻撃をしかけつつ自分の身を守るシールド(保護膜)を発生させる機械や機能のことを指している。しかし、この機械そのものが画面に映っているのではなく、発生したシールドしか現われていない。よって、「シールド発生機があるんだ」というよりも、シールドそのものに言及する方が分かりやすいと判断したのだろう。

表4、表5の下線部は、それぞれ「航空速度」、「人間の生命」が直訳である。前者を単に「速度」とするのはまったく妥当であるが、後者はロボット対人間の対比という文脈の中でのナレーションの部分であるので、やはり直訳すべきではなかっただろうか。

TABLE 3

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)
 DIALOGUE : They have shield generators.
 SUBTITLE : シールドだ

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 they	φ	省略	減
2 have	φ	省略	減
3 shield generators	シールド	簡略	減

TABLE 4

TITLE : EXECUTIVE DECISION
 DIALOGUE : Reduce your air speed as indicated.
 SUBTITLE : 速度をおとせ

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 reduce	をおとせ	直訳	同
2 your	φ	省略	減
3 air speed	速度	簡略	減
4 as indicated.	φ	省略	減

TABLE 5

TITLE : TERMINATOR 2

DIALOGUE : A terminator can learn the value of human life.SUBTITLE : ターミネーターが生命の価値を学べるなら

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 a terminator	ターミネーターが	直訳	同
2 can learn	学べるなら	意識	増
3 the value of	の価値	直訳	同
4 human life	生命	簡略	減

3-1-1-2. generalization (一般化)

組織、団体、地名などの固有名詞が一般的な名称で呼ばれる場合と更に抽象化し「彼ら」などの代名詞に訳される例があった。表7、表8、表9の下線部は前者の例で、表6の下線部が後者の例である。固有名詞が台詞の中で使用されるのは、物語の進行を説明するために故意に入れる説明台詞¹⁰⁾と特に理由もなく使われる場合とに分けられる。この見分けは困難であるが、作品の冒頭や重要な節目でやや不自然な印象を受けるシーンがそうである場合が多い。

表6にある台詞は、ジュダイ騎士のクワイ・ゴン・ジンが弟子のオー・ビー・ワンに連邦側の宇宙船の中で語ったものである。“these federation types”は、説明台詞と考えられるが、字幕ではその機能が失われ、簡略化されている。このように脚本家が意図的に観客が筋を追えるようにしているものを字幕翻訳家の判断で簡略することがあるのである。

表7は、タイタニック号の沈没で海に投げ出されて、破片にしがみつкинаが漂流しているジャックとローズの会話である。ジャックがローズを励まそうとしているのだが、呼吸も荒く必死に言っているに台詞はたいへん長く、しかも言い違いが全くない。また、この“the White Star Line”(タイタニック号の船会社)は説明台詞と考えられるが、字幕訳では、一般化され「船会社」になっており、字幕スペースの制約を受けたものと考えられる。

TABLE 6

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)			
DIALOGUE : <u>These Federation types</u> are cowards.			
SUBTITLE : <u>奴らは</u> は <u>小心者</u> だよ			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 these federation types	奴らは	簡略	減
2 are cowards	小心者だよ	直訳	同

TABLE 7

TITLE : TITANIC			
DIALOGUE : I intend to write a strongly worded letter to <u>the White Star Line</u> about all this.			
SUBTITLE : 助かったら <u>船会社</u> の社長あてに抗議の手紙を出す			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 I ... letter/about all this	抗議の手紙を出す	意訳	同
2 to the White Star Line	船会社の社長あてに	簡略	減

TABLE 8

TITLE : ERASER			
DIALOGUE : If you try to skip out on your testimony, I deliver you to <u>the Cannelli family</u> myself.			
SUBTITLE : 証言を逃げれば、 <u>仲間</u> に送り返すぞ			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 If you ... testimony,	証言を逃げれば、	意訳	減
2 I deliver you/myself	送り返すぞ	簡略	減
3 to the Cannelli family	仲間に	簡略	減

表8は、仲間に捕まり殺されそうになった刑事事件の証人に対して、証人保護プログラムのイレイザーが忠告しているシーンである。この命を救われた証人の男は、のちに重要な役割を演じイレイザーに恩返しをするわけだが、この下線の組織自体はこの作品の中では重要な存在ではない。このシーンの

TABLE 9

TITLE : DEEP IMPACT
 DIALOGUE : The wave hit Europe and Africa, too.
 SUBTITLE : 津波は世界中を襲い

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 the wave	津波は	意識	増
2 hit	襲い	直訳	同
3 Europe and Africa	世界中	簡略	減
4 too	φ	省略	減

数分前の部分で、同証人を殺そうとした組織の人間が、同組織について言及したシーンがあったので、それとつじつまを合わせるための説明台詞であると考えられる。

表9は、隕石落下後に生き残った民衆に人類の復興を呼びかけている米大統領の演説の一節である。原文では“Europe and Africa”を襲いと言っており、他の地域への言及はない。しかし、この作品ではアジアを含む世界の隅々まで被害が拡大したことであり、2地域に限定した原文の方にむしろ問題があると言えるのではないだろうか。その点、字幕訳は作品の流れを汲んでおり、一般化することで原文の不備を補足した適確な訳に仕上がっている。

3-1-1-3. integration (統合)

統合とは、2つの台詞または、2つの文や、主節と従属節から複文を簡潔な1文に訳した例である。表10、表11、表12は2つの文を統合した字幕訳であり、表13は複文を統合したものであり、表14は特殊な例である。

表10は、裏切られ地獄に落とされたスポンが、復讐のためにこの世に蘇りパーティー会場を襲撃しているシーンである。第二文の“the favor”は第一文全体を指していると思われるが、原文のふたつのセンテンスを別々に訳すより統合することですっきりしている。原文では、“you” “me” “Jason”

“I”と4つも人を指す言葉があるのに、日本語訳では全く人称に言及した部分がないところに日本語の特質そのものが改めて認識させられる。

表11は、家にひとり取り残されたケビン少年がクリスマスの夜近くの教会に立ち寄り、そこで近所で変人扱いされている老人に話しかけられているシーンである。老人の方からケビンに歩み寄り、誤解を解こうとする。簡潔に訳されて自然な訳となっている。

表12は、バットマンとロビンが戦闘中に戦術を立てているシーンである。

TABLE 10

TITLE : SPAWN			
DIALOGUE : You sent me to hell, Jason! I'm here to return the favor.			
SUBTITLE : 地獄に落とされたうらみをはらしに来た			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 you	φ	省略	同
2 sent	落とされた	意識	増
3 me	φ	省略	減
4 to hell	地獄に	直訳	同
5 Jason	φ	省略	減
6 I	φ	直訳	同
7 'm here	来た	直訳	同
8 to return	をはらしに	意識	増
9 the favor	地獄に落とされたうらみ	意識	増

TABLE 11

TITLE : HOME ALONE			
DIALOGUE : You can say hello when you see me. You don't have to be afraid.			
SUBTITLE : 怖がらずに 私にあいさつを			

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 You can say hello	私にあいさつを	意識	同
2 when you see me	φ	省略	減
3 You don't have to be afraid.	怖がらずに	意識	同

TABLE 12

TITLE : BATMAN & ROBIN
 DIALOGUE : You get the ice. I'll get the Iceman.
 SUBTITLE : 二手に別れよう

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 You ... the Iceman.	二手に別れよう	簡略	減

TABLE 13

TITLE : INDEPENDENCE DAY
 DIALOGUE : If this isn't an insanely beautiful woman, I'm hanging up.
 SUBTITLE : 美人からの電話だろうな

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 If ... up.	美人からの電話だろうな	意識	減

TABLE 14

TITLE : UNDER SIEGE 2 (暴走特急)
 DIALOGUE : We know this. The Chinese know we know. But we make belief that we don't know. And the Chinese make believe that they believe that we don't know. Everybody knows.
 SUBTITLE : このことは公然の秘密だ だが建て前ではお互いに知らんぷりだ でもみんな知っている

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 We know this./we know.	このことは公然の秘密だ	意識	減
2 And ___ don't know.	だが ___ 知らんぷりだ	意識	減
3 Everyone knows.	でもみんな知っている	意識	増

この字幕訳は見事である。両者の具体的な役割分担は省略されているが、このシーンではぴったりはまる字幕訳である。

表 13 は、宇宙からの電波の受信した研究員が自宅で睡眠中の上司に電話で緊急連絡し、その上司が受話器を挙げているシーンである。原文の台詞は 3

秒ほどの長さがあるのに対して、字幕は実際に発声してみると半分ほどである。しかしながら、“instantly”という強調の副詞が省略されている点がやや不満が残るものの、「～だろうな」という語尾に強い確認の意志が表わされており原文の“I’m hanging up.”のニュアンスを伝えている。より原文に忠実な訳を提示すれば「美人としか話さないからな」なども可能だろう。

表 14 の台詞では、全体で“know”が 5 回も使われており一種の早口言葉 (tongue twister) と言えよう。リスニング活動に取り入れ、内容理解やディクテーション等のタスクに活用可能な貴重な言語資料である。原文では 5 つの文であるが、日本語では 3 つの文になっている。第 1 文と第 2 文が最初の字幕訳に統合され、第 3 文と第 4 文が二番目の訳に、そして第 5 文が三番目の訳になっている。特に第 4 文は複雑な埋め込み文 (embedded sentence) であり、学習者には板書して説明する必要があるだろう。

3-1-2. Omission (省略)

省略は、頻出の類型であり該当例文も多かったので、品詞を中心に分類してみた。文脈から指示物が明白な場合や字幕スペースの関係上、またその他の理由から 1. subject (主語) / 2. verb (動詞) / 3. object (目的語) / 4. adjective or adjectival phrase (形容詞 (句)) / 5. adverb or adverbial phrase (副詞 (句)) / 6. idiomatic phrase (成句) / 7. example (例) / 8. interjection (間投詞) / 9. sentence (文) が省略されている。省略されやすい品詞や形態の特定は実証的には困難だが、日本語で省略の多い主語や目的語の省略が特に多いようである。

3-1-2-1. subject (主語)

英語では構文上、指示物が明白な場合でも主語が省略されることは少ないが、日本語では主語の省略がむしろ自然であることが多い。特に一人称や二人称の場合は、理由のない限り省略されるのが普通であるが、時に訳す場合もあるので注意が必要である。

表 15、表 16、表 17 は同じ作品からの連続シーンである。表 15 では、元清朝最後の皇帝が観光コースになった昔の自分の宮殿の立ち入り禁止の場所へ踏み込もうとしたところ守衛の息子が注意しているシーンである。周囲に人はいなく、また相手の正体が不明の時点で使用されている“you”である。また、表 16 の“I”は訳されていないのに対して、表 17 では訳されている。前者は無名の守衛の息子であるのに対して、後者はこの作品の主人公でもあり

TABLE 15

TITLE : THE LAST EMPEROR

DIALOGUE : You are not allowed in there.

SUBTITLE : そこに入ってはいけない

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 You	φ	省略	減
2 are not allowed in there	そこに入ってはいけない	直訳	同

TABLE 16

TITLE : THE LAST EMPEROR

DIALOGUE : A: Who are you? B: I live here. I am the son of the guardian.

SUBTITLE : A: だれ B: 守衛の息子 ここに住んでいる

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 I	φ	省略	減
2 live here	ここに住んでいる	直訳	同

TABLE 17

TITLE : THE LAST EMPEROR

DIALOGUE : A: Who are you? B: I was the Emperor of China.

SUBTITLE : A: だれなの B: 私は中国の皇帝だった

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 I	私は	直訳	同
2 was the Emperor of China	中国の皇帝だった	直訳	同

歴史的に貴重な個人が相手の想像を絶する身分を明かすところでもあり、この一人称はより強く観客に意識されるためだろう。

また普通名詞や固有名詞も省略された例があった。表 18 は、司令官が黒幕シディアスへ報告しているシーンである。ここでいう“this scheme of yours”は、乗鑑してきた 2 人のジュダイ騎士を殺害する計画であるが、反撃され失敗に終る。状況から何が失敗なのかが明白なので、ここでは主語が省略されたものと考えられる。しかし、表 19 の場合については、原文の 2 つの主語が前方の文の主語に統合されているが、より多数であることを強調している後方の主語のニュアンスが伝わってこない。確かに「数え切れないほどの」という一節はスペースの関係上 2 行になってしまうが、やはりこの主語の省略はやや粗野な印象を受けざるを得ない。

TABLE 18

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)
 DIALOGUE : This scheme of yours has failed, Lord Sidious.
 SUBTITLE : 失敗です シディアス卿

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 This scheme of yours	φ	省略	減
2 has failed	失敗です	直訳	同
3 Lord Sidious	シディアス卿	直訳	同

TABLE 19

TITLE : DEEP IMPACT
 DIALOGUE : Millions were lost./Counless more left homeless.
 SUBTITLE : 何百万人もが死に/家を失いました

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Countless more	φ	省略	減
2 left homeless	家を失いました	直訳	同

3-1-2-2. verb (動詞)

動詞の省略の場合は、目的語の後に「を」などの助詞を付けた形で余韻を残した訳例(表 20、表 21、表 22)と埋め込み文のいずれかの動詞が省略された訳例(表 23)が見つかった。

表 20 は、2 人のジュダイ騎士の司令室突入を阻止しようとしているシーンである。“close”の部分を訳して「閉じろ」を加えても字幕スペース上問題はないはずだが、既に開いた状態のドアが画面には写し出されているので、もう閉じるしかないのだから訳する必要がなかったのだろう。

表 21 では、添乗員が乗客にビデオの鑑賞を勧めるところだが、ファーストクラスらしく座席前に個人鑑賞用モニターが設置されており、明らかにビデオを販売しているのではなく「観る」ことを前提にしていることが分かる。

表 22 の原文は説明台詞のようなのだが、文脈から内容がよく分かるので訳す必要がなかったのだろう。

表 23 の例は、テロリストの国際武器市場から核爆弾を奪回したジェームズ・ボンドが司令部に通信しているシーンである。脱出前にミサイル発射を命令した無情な上官に対して皮肉を込めて言っているのだが、字幕訳ではそれが全く伝わってこない。この質問の後、司令部全体が爆笑の渦に包まれるのだが、字幕だけで理解している人にはなぜ笑っているのか分からないだろう。しかし、ここで上官を言及した訳を付けると、複雑な訳になってしまうので、ひと目で要点が掴める字幕にはならないと判断したものと考えられる。

TABLE 20

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)
 DIALOGUE : Close the blast doors!
 SUBTITLE : 強化ドアを！

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 close	φ	省略	減
2 the blast doors	強化ドアを	直訳	同

TABLE 21

TITLE : MISSION: IMPOSSIBLE

DIALOGUE : Would you like to watch a movie, Mr. Phelps?

SUBTITLE : フェリッパ様 映画を？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Would you like to	φ	省略	減
2 watch	φ	省略	減
3 a movie	映画	直訳	同
4 Mr. Phelps	φ	省略	減

TABLE 22

TITLE : THE NEGOTIATOR (交渉人)

DIALOGUE : When did you find out Nate was investigating the fund?

SUBTITLE : いつネイサンのことを？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 when	いつ	直訳	同
2 did you find out	φ	省略	減
3 Nate ____ fund	ネイサンのことを	簡略	減

TABLE 23

TITLE : 007: TOMORROW NEVER DIES

DIALOGUE : Ask the Admiral where he'd like his bombs delivered.

SUBTITLE : 回収した爆弾はどこへ運ぶ？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 ask	φ	省略	減
2 Admiral	φ	省略	減
3 where	どこへ	省略	減
4 he'd like	φ	省略	減
5 his bomb	回収した爆弾	意識	増
6 delibered	運ぶ	直訳	減

3-1-2-3. object (目的語)

目的語、特に主語と同様に日本語では省略されることが多いが、それは既出の指示物である場合や文脈から明確に判断できる場合に限られる。英語では構文上、情動的価値のないものも語順の維持のため残さざるを得ない。このため、日本語母語話者は、英語を発信する時にその無駄だが不可欠な要素を省いてしまうことがある。

表 24 は、ライアン 4 兄弟の末っ子で唯一死亡が確認されていないライアン二等兵に対してワーシャル将軍が救出を命じているシーンである。代名詞であることから既出の指示物であることが分かるので、日本語では不要である。

表 25 は、米軍が極秘で開発し配備していた地上攻撃用人工衛星が、軍を解雇された恨みからテロリストと手を組んだ設計者に乗っ取られ、途方にくれている司令部で交わされている会話の一部である。既出の言葉ではあるが、あえて名称を繰り返しているのは説明台詞か、または正確さが求められる軍事的な状況での慣習で固有名詞を繰り返している可能性がある。

表 26 の国際武器マーケットから核爆弾を奪還したジェームズ・ボンドが司令部に報告しているシーンであるが、文脈から指示物は明白である。

しかし、指示物が既出である場合や文脈から明確に判断できる場合以外にも表 27 の下線部にあるように、いきなり出てきたものにも適用されるようで

TABLE 24

TITLE : SAVING PRIVATE RYAN

DIALOGUE : We are gonna get him the hell out of there.

SUBTITLE : 戦場から連れ戻すのだ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 We are gonna	のだ	意識	減
2 get	連れ戻す	意識	増
3 him	φ	省略	減
4 the hell	φ	省略	減
5 out of there	戦場から	意識	増

TABLE 25

TITLE : UNDERSIEGE 2 (暴走特急)
 DIALOGUE : We designed Grazer One to be undetectable.
 SUBTITLE : 探知不能の設計です

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 We	φ	省略	減
2 designed	設計です	直訳	同
3 Grazer One	φ	省略	減
4 to be undetectable	探知不能の	直訳	同

TABLE 26

TITLE : 007: TOMORROW NEVER DIES
 DIALOGUE : I've evacuated the area.
 SUBTITLE : 脱出した

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 I've evacuated	脱出した	意訳	減
2 the area	φ	省略	減

TABLE 27

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)
 DIALOGUE : They're here to force a settlement.
 SUBTITLE : 圧力を掛ける気だ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 they're here	φ	簡略	減
2 to force	圧力をかける	直訳	同
3 a settlement	φ	省略	減

ある。この“a settlement”は明らかに説明台詞と考えられる。同作品の始めの部分に物語の解説文がテーマ曲と共に写し出されるのだが、それをよく観ている観客や事前に筋書を承知している者には何のことか分かるが、英語の母語話者の中でも何に言及しているのか理解できなかった者もいるだろう。

ゆえに、混乱を避けるために、むしろ曖昧にしたのではないだろうか。ただし、「圧力をかける」という訳はあまりにも曖昧で漠然過ぎる。「われらの計画をつぶす気だ」など、文脈に沿った意識をすべきではなかっただろうか。

3-1-2-4. adjective (形容詞・形容詞句・形容詞節)

ここでは内容語であり特定の対象物の性質を記述する情報を持っている形容詞と共に“this”“that”などの指示代名詞や関係代名詞節の省略例を解説する。指示代名詞が省略されるのは、文脈から指示物が明白な場合であるが、内容語である形容詞が省略されるのはその情報自体価値が低いか、また字幕スペースの制約によるものと考えられる。

表 28 は、正体が暴かれ言い訳している不法滞在の異星人マイキーに対して特別警察“Division 6”の警官が取り調べを行っているシーンである。下線部の指示代名詞は手に持っている偽物の首のことだが、日本語のこそあどでは「そ」の空間にある。画面には宇宙人本人の首はあるものの、偽物の方を話題にしているのは明白である。

表 29 では所在地が省略されているが、“S.E.T.I.”¹¹⁾ だけでは何のことだか分からない。この修飾句の部分の省略はスペースの制約のためだと思われる。また、ニューメキシコは日本の観客には馴染みが薄い地名であると字幕翻訳者が判断したのかも知れない。しかし、馴染み深さだけでなく、外国の地

TABLE 28

TITLE : MEN IN BLACK
 DIALOGUE : Mikey, Hand me that head.
 SUBTITLE : 首をよこせ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Mikey	φ	省略	減
2 hand	よこせ	直訳	同
3 me	φ	省略	減
4 that head	首を	意識	減

TABLE 29

TITLE : INDEPENDENCE DAY			
DIALOGUE : A: Who else knows about this?		B: S.E.T.I. in New Mexico identified a signal.	
SUBTITLE : A: 他に知っている者は？		B: S.E.T.I. だけと思われませんが	
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 S.E.T.I.	S.E.T.I	直訳	同
2 in Mexico	φ	省略	減
3 identified a signal	φ	省略	減

名が概してカタカナで表記されることから字幕スペースを取ることも省略されやすい原因であると思われる。

表 30 と表 31 の下線部は形容詞句の省略例である。表 30 は、マーシャル将軍に部下がライアン 4 兄弟の経緯を説明しているシーンであるが、説明台詞というより軍の性質上、具体的な師団の名前を挙げて詳細に説明しているものと考えられる。この軍隊の厳密さを感じさせるためには、ここではあえて「第 29 師団」は訳しておいた方がよかつただろう。表 31 でも「ここにいらっしゃる皆さん」と訳に忠実に指示物を限定した方が法廷内の人に訴えかけている雰囲気により伝わるだろう。

表 32 は、主役の天文学者が幼い頃に亡くした父親に化けた異星人に問いか

TABLE 30

TITLE : SAVING PRIVATE RYAN			
DIALOGUE : The four of them were in the same company in <u>the 29th Division</u> ...			
SUBTITLE : 最初 4 兄弟は <u>同じ隊に</u> ...			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 The four of them	4 兄弟	意訳	増
2 were	φ	省略	減
3 in the same comany	同じ隊に	直訳	同
4 in the 29th Division	φ	省略	減

TABLE 31

TITLE	: JFK
DIALOGUE	: Going back to when we were children, I think most of us <u>in this court room</u> thought that ...
SUBTITLE	: 子供のころ、みんなこう思っていた...

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 I think	φ	省略	減
2 most of us	みんな	意識	同
3 in this court room	φ	省略	減
4 though that	こう思っていた	直訳	同

TABLE 32

TITLE	: CONTACT
DIALOGUE	: All the other civilizations <u>that you find</u> , they come here?
SUBTITLE	: 他の文明人もここへ?

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 All the other ____ here?	他の文明人もここへ?	意識	減

けているシーンである。この原文の台詞は主部が長くなったために使われた口語的な構造をなしている。下線部の関係代名詞節が省略されているが、もっとこの作品全体の流れを生かして原文に忠実に「接触した文明人は皆ここへ?」とした方が適切であろう。

3-1-2-5. adverb (副詞、副詞句、副詞節)

副詞は動詞、形容詞、さらに他の副詞を修飾し、意味や程度を強調する。動詞を修飾するのは副詞だけではなく、従属節を含めた副詞節や副詞句と多様である。表 33 の下線部は動詞を修飾している例、表 34 は形容詞を修飾している例、そして表 35 は目的を表わす不定詞の副詞的用法の例である。

表 33 は、トニーという少年に利用され電気店に盗品らしい大型のラジカセを売りに来た 2 人の少年に対して店の主人が叱りつけているシーンである。

TABLE 33

TITLE : DIE HARD 3
 DIALOGUE : I'll take it back to Tony with a message.
 SUBTITLE : おれが返してやる

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 I'll take it back	おれが返してやる	直訳	同
2 to Tony	φ	省略	減
3 with a message	φ	省略	減

少年たちに代わってこの主人がトニーに返却するということだが、下線部にあるように説教してやろうという主人の怒りが伝わってこない。「返してやる」で少々のは感じられるものの、やはり物足りない感じは否めない。表 34 にある“insanely” (狂いそうなほど、非常に) はおおげさな表現だが、このシーンを盛り上げてくれる働きをしている副詞であるにも係わらず、省略されているために平凡な訳になっている。早朝電波受信所から宇宙からの異常な音が届いているという知らせを受けているところであり、寝ているところを起され機嫌が悪い上司の台詞なので原文に忠実に字幕を 2 行にしても「とびっきりの美人」とした方が目覚めるというニュアンスが伝わり味わいが出ただろう。

表 35 にあるのは、母親と兄弟姉妹と離別し農場へやって来寂しがっている子豚のベープに対して、心優しい雌の母犬がいたわりの言葉をかけてあげているシーンである。原文の“to”以下は、目的を表わす不定詞の副詞的用法で

TABLE 34

TITLE : INDEPENDENCE DAY
 DIALOGUE : If this isn't an insanely beautiful woman, I'm hanging up.
 SUBTITLE : 美人からの電話だろうな

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 insanely	φ	簡略	減
2 beautiful woman	美人	簡略	減

TABLE 35

TITLE : BABE

DIALOGUE : What did your mother call you to tell you apart from your brothers and sisters?

SUBTITLE : お母さんはあなたを何と呼んでた？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 What ____ you	お母さんはあなたを何と呼んでた？	直訳	同
2 to tell you apart ...sisters	φ	省略	減

ある。この質問の前に、何者かと聞かれてベープは単に豚という生物上の分類を答えているのだが、それに対してこの雌犬はベープの個人としての呼び名を聞き出すために不定詞を使って質問を明確にしている。

3-1-2-6. idiomatic phrase (成句)

主に前置きとして頻繁に用いられる成句は、そっくり省略されている例(表 36、表 38、表 39、表 40) もあれば訳されている例(表 37、表 41) も見つかった。スペースの制約上、情報価値の少ないものが省略の対象になっているように思われる。また、日本語の文の中に現われるとくどい印象を与えたり、馴染まないと判断される場合もあるかも知れない。

表 36 は、交渉のために通商連合側に特使として派遣されたジェダイ騎士の 2 人の乗鑑を申し入れているシーンである。一般的に“with all due respect”は、上の立場の人間の発言に対して異を唱える前に言う丁寧な前置き表現であるが、このシーンでは第一声で使われており、反論というよりもむしろより形式的な前置きのフレーズであり情報価値が乏しく、日本語訳にある「～おられます」という言葉の選択で十分丁寧さが表わされているのではないだろうか。

一方、この成句が表 37 では、意識だがしっかりと訳されている。連邦保安官が事故現場に到着し、先に調査を始めていた地元の保安官に提言しているシーンである。この時点では丁寧な接し方をしているが、徐々に高圧的な

TABLE 39

TITLE : UNDERSIEGE 2 (暴走特急)

DIALOGUE : A: We designed Grazer One to be undetectable. B: But not from us, for Christ's sake.

SUBTITLE : A: 探知不能の設計です

B: 味方も不可能か？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 But	φ	省略	減
2 not from us	味方も不可能か	意識	増
3 for Christ's sake	φ	省略	減

TABLE 40

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)

DIALOGUE : As you know, our blockade is perfectly legal.

SUBTITLE : 我々の封鎖措置は合法的だ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 as you know	φ	省略	減
2 our ... legal	我々の封鎖は合法的だ	直訳	同

TABLE 41

TITLE : SAVING PRIVATE RYAN

DIALOGUE : To be honest with you, I - I wasn't sure how I'd feel coming back here.

SUBTITLE : 正直言って、自分の気持ちが不安でした

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 To be honest with you	正直言って	直訳	同
2 I ... here.	自分の気持ちが不安でした	意識	減

り、字幕翻訳者の判断であることが改めて感じられる。

3-1-2-7. example (例)

例が複数並列された場合、いずれかひとつが、または全部省略された訳例が見つかった。部分的な省略はよく注意していないと気付かないぐらい微妙である。情報的価値や字幕スペースの制約によるものと考えられるが、その選択は字幕翻訳者の恣意的判断に委ねられることも少なくないようだ。表 42、表 43、表 44 では 1 例が欠落しているが、表 45 にあるように例を全て省き簡潔にまとめてしまっている例も見つかった。

表 42 は、隕石落下後に生き残った民衆に対して米大統領が人類の再興を呼びかける演説の一節である。「テネシー渓谷」が省略されているが、なぜ「オハイオ」の方を省略しなかったかは不明である。所要スペースの差がこの場合大きくないことから判断すると、単に原文で後方に置かれていたためではないかと思われる。

表 43 は、火山活動が原因で全身大火傷を負った土木作業員の男性が緊急治療室に運ばれてきたシーンである。この台詞は、医者が医療スタッフに指示しているものだ。下線部は“electrocardiogram”（心電図）のことであるが、早口で言う台詞のため字幕を 1 行で収めたのであろう。なぜこの部分が省略されたのかは不明であるが、前の訳例と同様後方に置かれていたためであると思われる。

TABLE 42

TITLE : DEEP IMPACT

DIALOGUE : The waters reached as far inland as the Ohio and Tennessee Valleys.

SUBTITLE : 津波はオハイオの内陸まで襲い

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 The water	津波は	意識	増
2 reached	襲い	意識	増
3 as far inland as	内陸まで	直訳	同
4 the Ohio	オハイオ	直訳	同
5 Tennessee Valleys	φ	省略	減

TABLE 43

TITLE : VOLCANO
 DIALOGUE : Let's get a CBC, chest X-ray and EGK.
 SUBTITLE : 血液検査とレントゲンを

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Let's get	を	簡略	減
2 a CBC	血液検査	直訳	同
3 chest X-ray	レントゲン	直訳	同
4 and EGK	φ	省略	減

TABLE 44

TITLE : THE FUGITIVE (逃亡者)
 DIALOGUE : What I want out of each of you is a hard target search of every gas station, residence, warehouse, farmhouse, henhouse, outhouse and doghouse in that area.
 SUBTITLE : 全員 徹底的搜索を開始 ガソリンスタンド 住宅 倉庫 農家 鳥小屋 犬小屋 すべてだ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 What I want ____ you is	全員～開始	意識	増
2 a hard target search of	徹底的搜索を	直訳	同
3 every gas station	ガソリンスタンド	直訳	同
4 residence	住宅	直訳	同
5 warehouse	小屋	直訳	同
6 farmhouse	農家	直訳	同
7 henhouse	鶏小屋	直訳	同
8 outhouse	φ	省略	減
9 doghouse	犬小屋	直訳	同
10 in that area	φ	省略	減

省略されるのが後方に置かれているものとは限らないことを示しているのが表 44 の訳例である。これは、地元の保安官から捜査権を奪った連邦保安官が捜査員に逃亡者捜査の指揮をとり盛り上がるシーンである。“every” 以下 7 つの例が出ており、字幕も何度と入れ替わり、スペースは十分あるにも係

TABLE 45

TITLE : THE NEGOTIATOR (交渉人)			
DIALOGUE : If you <u>coughed</u> , <u>sneeze</u> , <u>uh</u> , <u>cross your legs</u> , <u>scratch your ass</u> , they're all telltale signs. You can't cheat.			
SUBTITLE : あんたの一つ一つの動作やしぐさは情報を発している			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 if	φ	省略	減
2 you ... ass	あんたの一つ一つの動作やしぐさ	意識	同
3 they're all telltale signs	情報を発している	意識	同
4 you can't cheat	φ	省略	減

わらず、なぜ“outhouse”（野外トイレ）だけが省略されているか理解に苦しむ。また、この台詞は、この例を語彙リストとして提示するか、まず書き取りをさせてから字幕を見せ、字幕で訳されていない特定語を選ばせるタスクができそうである。

表 45 は、自分の無実の罪を証明しようと 4 人の人質をとった警官が人質のひとりで事件に関与していると思われる司法当局の人物に話しかけているシーンである。ここでは、例がひとつ省略されるのではなく、全て省略され「一つ一つの動作やしぐさ」という一節に集約されている。早口で例をまくし立てているので、全部訳していたのでは字幕を読み切れないと判断したものと思われる。

3-1-2-8. interjection (間投詞)

ここでは、間投詞や談話標識¹²⁾など情報的価値が乏しく、また日本語として馴染まないために省略されたと思われる例を紹介する。その最も代表的なのが、ファーストネームである。英語ではよく相手の愛称を文頭や文尾に付けて話す、それは他の人と区別するためだけではなく、2人切りの会話でも使われることから、親しみを表す言語の形態である。一方、日本語母語話者は、個人差はあるものの英語母語話者ほど頻繁に相手の名前を口にしない。その代わり「ね」「わ」「よ」などの助詞がその機能を代行している。

表 46 は、タイタニック号の沈没で冷たい海に投げ出されたジャックとローズが漂流物にしがみつきながら交す最期の会話の一部である。「わ」を付けることによって、“Jack”をつけるのと同様に親しみが表わされている。同様に表 47 では「で」で優しさが表わされている。

表 48 は、軍隊の階級である「伍長」のことであるが、ここでは省略されている。軍事関係の作品では、「大佐」などよく訳されているに気付くが、この作品では数体の外見がほとんど同じバトル・ロイドという戦闘ロボットの 1

TABLE 46

TITLE : TITANIC			
DIALOGUE : I love you, <u>Jack</u> .			
SUBTITLE : 愛しているわ			
<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 I love you	愛しているわ	意識	同
2 Jack	φ	省略	減

TABLE 47

TITLE : CONTACT			
DIALOGUE : Small moves, <u>Ellie</u> .			
SUBTITLE : あせらないで			
<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 small moves	あせらないで	意識	同
2 Ellie	φ	—	減

TABLE 48

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)			
DIALOGUE : Check it out, <u>Corporal</u> .			
SUBTITLE : よく調べろ			
<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 check it out	よく調べろ	意識	同
2 corporal	φ	省略	減

機を指しているのだが画像上どのロボットが伍長なのか識別が困難である。ゆえに、この呼称は無意味であると判断されたのであろう。

ファーストネームと同様に省略されやすいのが、表 49、表 50、表 51 にあるような談話標識である。情報的価値は低いが、感情や内心などを伝える語として会話では多用される。日本語にあえて訳す場合は文脈しだいで多種多様な訳が出てくる。

表 49 は、飛行機の離陸前にある女性が荷物を上の棚に入れようとしたところ隣の男性の宝石の入ったケースの上に誤って落としてしまうシーンである。画面からは、この男性の怒り方は常軌を逸しており、女性はかなり動揺する。ゆえに、「あっ、すみません」とした方がよりこの女性の心情が伝わったはずである。

同様に、命の恩人イレイザーに証人が感謝している表 50 では、字幕のスペースは十分あるのだから「だんな」などを入れれば画面から伺われるこの証人の人物像をより明確に表わせたはずである。

表 51 は、テロリストに乗っ取られた地上攻撃用の人工衛星が攻撃しようとしている標的が中華人民共和国の工業都市であることが判明したシーンである。技術者が驚きながら上官へ報告する台詞なので「大変だ！」を入れたいところだが、字幕スペースの制約を受けているようである。

TABLE 49

TITLE : EXECUTIVE DECISION

DIALOGUE : A: Stupid, woman. B: Well, I'm sorry.

SUBTITLE : A: バカめが B: すみません

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 well	φ	省略	減
2 I'm sorry	すみません	直訳	同

TABLE 50

TITLE : ERASER

DIALOGUE : Hey, what's your name?

SUBTITLE : 名前は？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Hey	φ	φ	減
2 what's your name?	名前は？	意識	減

TABLE 51

TITLE : UNDERSIEGE 2 (暴走特急)

DIALOGUE : Oh, Jesus. The target's Mainland China.

SUBTITLE : 目標は中国本土です

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Oh, Jesus.	φ	省略	減
2 The target's ____ China.	目標は中国本土です	直訳	同

3-1-2-9. sentence (文)

文単位の省略は、場面の展開を理解するのに影響のない情報を有した比較的短い台詞であることが多いようである。

表の 52 と 53 は、確認のための発話と考えられる。表 52 は、殺し屋レオンが彼を頼って身を寄せてきたマチルダの質問に答えているシーンである。下線部は省略されているが、前文で助詞「な」を付けることで自分の信条を曲げようとししない意志の硬さが表わされている。表 53 は、今にも操縦室にテロリストが乗り込んでこうとしている切迫した状況下で機長が副操縦士に対して決死の命令を出しているシーンである。ここでは「のだ」という文尾によって命令の絶対性が強調され、下線部の省略の分を補っているようである。ここでも日本語の助詞の有用性が発揮されている。

表 54 は、攻撃用ロボットであるドロイドカスの追撃を受け、ジュダイ騎士のクワイ・ゴン・ジンが弟子のオービー・ワンに退去を指示しているシーンである。字幕スペースには余裕があるので、原文に忠実に「だめだ」とか「ま

TABLE 52

TITLE : LEON

DIALOGUE : A: You clean anyone? B: No woman, no kids. That's the rules.

SUBTITLE : A: だれでも殺すの B: 女と子供以外はな

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 no woman, no kids	女と子供以外はな	直訳	同
2 that's the rules	φ	省略	減

TABLE 53

TITLE : AIR FORCE ONE

DIALOGUE : No matter what happens, we land this aircraft. Is that understood?

SUBTITLE : 何が何でも着陸させるのだ

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 no matter what happens	何が何でも	直訳	同
2 we land this aircraft	着陸させるのだ	直訳	同
3 Is that understood?	φ	省略	減

TABLE 54

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)

DIALOGUE : It's a standoff. Let's go.

SUBTITLE : 行こう!

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 It's a standoff.	φ	省略	減
2 Let's go.	行こう!	直訳	同

ずい」などを付けるべきだったろう。

表 55 は、イギリス国王が戦場で発した命令に指揮官が驚いているシーンである。敵兵と味方が入り交じって戦っている場所へ矢を打ち込めという無謀な策に異を唱えていると受け取れるが、英語字幕も 1 文ずつ 2 回に分けて提

TABLE 55

TITLE : BRAVEHEART
 DIALOGUE : A: Arches. B: I beg your pardon, sire? Won't we hit our own troops?
 SUBTITLE : A: 次は矢だ B: わが方の兵を傷つけます

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 I beg your pardon, sire?	φ	省略	減
2 Won't _____ troops?	わが方の兵を傷つけます	意識	同

TABLE 56

TITLE : DIE HARD 3
 DIALOGUE : It's ten after 9:00. Why aren't you in school?
 SUBTITLE : 学校はどうした？

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 It's ten after 9:00.	φ	省略	減
2 Why aren't you in school?	学校はどうした？	意識	同

示されているので「お言葉ですが」などを付けてもよかっただろう。

表 56 は、ニューヨークのハーレムの電気店に学校をサボって大きなラジカセを売りに来た 2 人の少年に対して、経営者が注意するシーンである。下線部は他の例と異なり実質的な内容を有し、観客に始まる長い 1 日の起点となる時刻を知らせてくれる説明台詞になっているが、完全に省かれている。「もう 9 時過ぎているぞ」を入れてもよかったのではないだろうか。字幕スペースの余裕は十分あったはずであり、この省略は行き過ぎではないだろうか。

3-2. ADDITION (増加)

原文の台詞に情報が付加された訳例は、直訳では不明瞭であったり漠然とし過ぎている台詞に対し語を補足した“Clarification”(明瞭化)と同じ原文の台詞が何度も繰り返される場合に異なる字幕訳が付けた“Variation”(変化)に分類した。

3-2-1. Clarification (明瞭化)

明瞭化された訳例は、更に文脈を最大限に反映させた翻訳である“contextualization”（文脈の明示）、原文にはない意味を補足した“compensation”（補足）、代名詞などの指示物を具体的に示した“specification”（指示物の明示）、原文にある特定の語の属性を強調した“emphasis”（強調）及び寸法や量などの単位を日本語母語話者に馴染み深い単位に変換した“conversion”（単位の変換）の5類型に細分化した。

3-2-1-1. contextualization (文脈の明示)

原文を直訳せず台詞の文脈での役割や機能を考慮した訳例が多数見つかった。字幕翻訳者の技量が最も試される類型ではないと思われる。

表 57 は、母親の病気を知り慌てて病室に駆けつけたフォレスト・ガンプが病床の母親にかけた言葉であるが、文脈に沿った妥当な訳である。

表 58 は、ジュダイ騎士 2 人の反撃を受け行き詰まった司令官が嘆いている

TABLE 57

TITLE : FORREST GUMP			
DIALOGUE : <u>What's the matter?</u>			
SUBTITLE : 病気なの？			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 What's the matter?	病気なの？	意訳	増

TABLE 58

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)			
DIALOGUE : <u>We will not survive this.</u>			
SUBTITLE : ジュダイは手ごわい			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 We ... this.	ジュダイは手ごわい	意訳	増

シーンである。“this”はジュダイ騎士の攻撃を指していると思われるが、「こりゃもうだめだ」としてもいいところをより具体的に状況を伝えており、原因の所在が明らかになっている。

表 59 は、復讐のために宴会を襲撃し銃を向けているスポンに対して、絶体絶命の状況にいる敵方の女性が挑発しているシーンであるが、この直後ほんとうに撃たれてしまう。「おまえにはガッツがない」とするよりもガッツの内容を明確にした訳にはなっているが、もっと具体的に「撃てないくせに」としても良かったのではなかろうか。

表 60 は、天国に旅立とうとしているサムが世話になった霊媒師のオダ・メイに感謝の言葉を述べているシーンである。直訳すれば「君のお母さんも(君のことを)誇りに思うだろう」となるが長過ぎる。そこでここではあくまでもサムがオダ・メイに感謝している訳になっている。だから「助かったよ」「これで救われた」「思い残すことはない」などでも別に構わなかっただろうが、「成仏できる」では合わないだろう。

TABLE 59

TITLE : SPAWN
 DIALOGUE : You don't have the guts.
 SUBTITLE : 殺せないくせに

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 You don't have the guts.	殺せないくせに	意訳	増

TABLE 60

TITLE : GHOST
 DIALOGUE : Your mother'd be proud.
 SUBTITLE : 君のおかげだ

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 Your mother'd be proud.	君のおかげだ	意訳	同

TABLE 61

TITLE : ERASER
 DIALOGUE : Just do me quick.
 SUBTITLE : 殺せ！

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Just do me quick.	殺せ！	意識	同

表 61 は、証人に立つ予定だった男が仲間に見つかり妻共々殺されそうになっているシーンである。リンチを加えられているが、命乞いはせずに強気になっている。

3-2-1-2. compensation (補足)

原文には全くない要素を付加した類型である。

表 62 は、皇帝がルークに父親を殺してダークサイドに入ることを勧めているシーンである。原文にはない「父を殺し」を付加することで「自分の運命」の内容が明らかになり説明台詞の役割を字幕翻訳が果たしている。

表 63 は、ハイジャックの主犯が乗客にむかって同機がハイジャックされたことを告げているシーンである。1 文がそっくり付加された極めて珍しい訳

TABLE 62

TITLE : STAR WARS VI (ジュダいの復讐)
 DIALOGUE : Now ... Fulfill your destiny and take your father's place at my side.
 SUBTITLE : さあ、父を殺し自分の運命に従うがいい 父の後を継ぎ私の下僕となれ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Now	さあ	直訳	同
2 fulfill your destiny	自分の運命に従うがいい	直訳	同
3 and	φ	省略	減
4 take your father's place	父を殺し／父の後を継ぎ	意識	増
5 at my side	私の下僕になれ	意識	同

TABLE 63

TITLE : EXECUTIVE DECISION

DIALOGUE : Now calm down.

SUBTITLE : 騒ぐな 全員 人質だ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 now	φ	省略	減
2 calm down	騒ぐな。	意識	同
3 φ	全員 人質だ	補足	増

例である。

3-2-1-3. specification (指示物の明示)

この類型は表 64 にあるように代名詞を具体的な指示物に直すパターンや、表 65 にあるように上位語彙を下位語彙に直して具体化した訳例、表 66 にあるように抽象的な言い回しを具体的に言及した訳例、さらに表 67 にあるように抽象的な記述をより具体的に記述に直すものである。

表 64 は、バットマンとロビンが二手にわかれてそれぞれダイヤとミスター・フリーズを追っているシーンである。「俺の分は取り返した」とするよりは、具体的に言うことで数分前の役割分担したシーンを思い出させてくれる。字幕翻訳が、説明台詞の役割を果たしていると考えられる。

表 65 は、無能と同僚から酷評されている美術館スタッフであるピーンの解雇を会議で決定しようとしているシーンである。彼の仕事ぶりがフラッシュバックされて観客には彼の怠慢さが分かっているし、また彼の仕事が絵の前で黙って座っている監視員だということも容易に分かる。これは明らかに字幕が説明台詞の役割をしている例である。

表 66 は、組織を裏切り告発しようとする男の舌を切り取ろうとする刺客のひとりの台詞である。「その前」とは命を取ることである。“Mr. Cannelli”は組織の幹部であり説明台詞と思われるが、この作品では同組織は重要ではない。作品の開始直後に出てくる名前なので、いったい何のことなのか瞬時に

TABLE 64

TITLE : BATMAN & ROBIN

DIALOGUE : I got mine.

SUBTITLE : ダイヤは取りかえた

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 I	φ	省略	減
2 got	取りかえた	意識	増
3 mine	ダイヤ	意識	増

TABLE 65

TITLE : BEAN

DIALOGUE : Mr. Bean is the worst employee in the gallery's history.

SUBTITLE : 彼は、美術館史上最低の監視員だ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Mr. Bean is	彼は～だ	簡略	減
2 the worst	最低の	直訳	同
3 employee	監視員	意識	増
4 in the gallery's history.	美術館史上	直訳	同

TABLE 66

TITLE : ERASER

DIALOGUE : But first, Mr. Cannelli wants a little souvenir.

SUBTITLE : その前に舌を切り取ってやる

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 but	φ	省略	減
2 first	その前に	直訳	同
3 Mr. Cannelli ... souvenir.	舌を切り取ってやる	意識	増

判断できず混乱を招く可能性もあり、むしろ省略したものと思われる。問題は、“a little souvenir”の方である。馬乗りになり、大きなペンチを顔に寄せていく画面は出てくるので、たとえ「小さな土産」と直訳しても何のこと

TABLE 67

TITLE : CONTACT
 DIALOGUE : You're not real.
 SUBTITLE : パパじゃない

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 you	φ	—	減
2 are not	じゃない	意識	同
3 real	パパ	意識	増

か十分見当がつくはずだが、翻訳者はより明瞭にしたかったのだろう。

表 67 は、地球外生物との接触を切望する天文学者が幼い時に亡くした父に変身した宇宙人と体面し、本物の父ではないことに気付くシーンである。「偽物でしょ」としても良さそうだが、話の筋が分からなくなった観客のために改めて、その宇宙人が彼女の父に化けていることを思い出させようとした説明台詞の役割をしていると考えられる。

3-2-1-4. emphasis (強調)

特定の英語の単語がひとつの日本語の単語と語義がまったく一致することはむしろ稀で、そのギャップを必要に応じて語を補足することでよりニュアンス出そうとする訳者の妙技であると同時にシーンの文脈を正確に把握することが求められる高度な手法である。

表 68 はミスター・フリーズが大粒のダイヤモンドを奪取し手に取って囁いているシーンである。原文にはない「広い」を付加したのは、そのダイヤモンドの唯一性を強調し、感慨深くダイヤを見つめているこのシーンに合致している。

表 69 は天国に旅立つサムに対して霊媒師のオダ・メイが別れの挨拶をしているシーンである。“all right”を「最高」と意味を最大限に強めているが、サムは画面の雰囲気からそれぐらいの励ましをしてもいいほど気の毒な体験をした青年なので観客も同調するだろう。しかし、これがテレビで放映され

TABLE 68

TITLE : BATMAN & ROBIN

DIALOGUE : In this universe, there's only one absolute.SUBTITLE : この広い宇宙で、唯一絶対なものがある

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 in this universe	この広い宇宙で	意識	増
2 there's only one absolute	唯一絶対なものがある	直訳	同

TABLE 69

TITLE : GHOST

DIALOGUE : I'm gonna miss you, Sam. You're all right.SUBTITLE : もうこれっきりね あなたは最高

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 you	あなたは	直訳	同
2 're	φ	省略	減
3 all right.	最高	意識	増

た吹き替え版では「わたしも寂しいけど もうだいじょうぶね」と原文に忠実に訳されている。

表 70 は、既出の台詞 (表 48) であるが、動詞を修飾する副詞「よく」が付けられている。ジュダイ騎士の生死を確認しているところだが、このロボットを含め仲間全員が破壊される。この緊迫した状況下では、厳格な司令が下されたと考えられる。

TABLE 70

TITLE : STAR WARS I (ファントム・メナス)

DIALOGUE : Check it out, Corporal.SUBTITLE : よく調べろ

<u>ENGLISH</u>	<u>JAPANESE</u>	<u>翻訳</u>	<u>情報</u>
1 check it out	よく調べろ	意識	増
2 Corporal.	φ	省略	減

3-2-1-5. conversion (単位の変換)

これは米国で使用されている、“feet”、“mile”、“pound”などの計量単位をメートル法に換算して表記している字幕のことである。速度、寸法、距離、高度、重量、容積、速度、温度など日米では全く違う単位を使用しているの、日本語母語話者に馴染み深い単位に換算する習わしになっているようだ。

表 71 は、連邦保安官が逃亡している医師の捜査を指揮しているシーンであるが、原文では速度をマイルで表わしており、キロに換算しているが正確ではなくおよその換算で表記している。表 72 は、機体到大穴が開き、どんどん高度が下がっていく様子をパイロットが計器を読み上げ報告しているシーンであるが、原文ではフィートを使用している。表 73 は、沈没する潜水艦で深度を読み上げているシーンであるが、同じくフィートを使用している。表 74 にあるのは戦闘機の飛行速度であるが、ノットを使用している。しかし、表 75 の湾岸戦争でイラク領内に攻め入る戦車部隊の攻撃中の台詞ではメートル法が使用されている。

TABLE 71

TITLE : THE FUGITIVE (逃亡者)

DIALOGUE : The average foot speed on uneven ground is 4 miles an hour.

SUBTITLE : この地形では、無傷でも徒歩で時速 6 キロだ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 4 miles	6 キロ	意識	同

TABLE 72

TITLE : U.S. MARSHALS (追跡者)

DIALOGUE : 1-3 thousand.

SUBTITLE : 高度 3,360

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 1-3 thousand	高度 3,360	意識	増

TABLE 73

TITLE : CRIMSON TIDE
 DIALOGUE : Passing 1,800 feet
 SUBTITLE : 深度 550 メートル

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 1800 feet	深度 550 メートル	意識	増

TABLE 74

TITLE : TOP GUN
 DIALOGUE : 900 knot closure
 SUBTITLE : 時速 1,600 キロ

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 900 knot closure	時速 1,600 キロ	意識	増

TABLE 75

TITLE : COURAGE UNDER FIRE (戦火の勇氣)
 DIALOGUE : Whoa! I see flashes, 3,500 meters, sir.
 SUBTITLE : 敵です 3,500 メートル!

ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 3,500 meters	3,500 メートル	意識	増

3-2-2. Variation (変化)

表 76 では、近くまでやってきた救助ボートが遠ざかって行こうとするとところを漂流中のローズが必死に叫んだ“Come back.”である。同じ台詞を 5 回言っているが字幕では 3 通りに訳されている。翻訳者が単調さを避けて変化を与えたものと思われる。表にあるような訳の使い分けの根拠は不明であるが、より趣のある訳を試みたものを推測される。もしこれが吹き替えでオリジナルが不明であったとしたら、画像の様子から全く違和感のないもので

TABLE 76

TITLE : TITANIC			
DIALOGUE : Come back. Come back. Come back. Come back. Come back.			
SUBTITLE : 戻って お願い 助けて 戻って 戻って			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 Come back.	戻って	直訳	同
2 Come back.	お願い	意識	増
3 Come back.	助けて	意識	増
4 Come back.	戻って	直訳	同
5 Come back.	戻って	直訳	同

あったろう。しかし、“Come back.”という初級者でも聞き取れそうな言葉が何度も繰り返されていることを認識しながらこれらの字幕を見た者は、この時ほど字幕というものは直訳ではないという事実を感じたことはなかったのではなかろうか。

対照的に、表 77 では、カウンセラーの役割を果たしている教師がグッド・ウィルに対して励まそうとしているシーンであるが、53 秒の間に 10 回も同じ台詞が繰り返されているのに、全く同じ字幕が表示される。「気にしないで」「自分をせめないで」などを使っても良さそうだが、あえて同じ訳を使用している。

TABLE 77

TITLE : GOOD WILL HUNTING			
DIALOGUE : It's not your fault. (x 10 times)			
SUBTITLE : 君は悪くない			
ENGLISH	JAPANESE	翻訳	情報
1 It's not your fault.	君は悪くない	直訳	同

4. CONCLUSIONS

本研究で明らかになった分類法は、今後分析データの拡大を含めた研究の進展により新たな類型の追加や細分化、または既存類型の統合や再整備が計られる可能性がおおいにあり、期待される。以下、本研究の分析で明らかになった主だった点を以下総括する。

- 1) 字幕翻訳は、正確さよりも明瞭さを追及するものである。
- 2) 字幕翻訳では、字幕スペースの制約のために恒常的に簡略や省略が行われている。
- 3) 字幕スペースに余裕があっても簡略や省略は頻繁に行われ、中には省略が行き過ぎた訳例もある。(表 56)
- 4) 簡略や省略のため場面の雰囲気や細かな感情の表現が損なわれてしまった訳例もある。(表 33、49、50、54)
- 5) 説明台詞は、字幕では役割が活かされずに簡略または省略されている場合があるが、その根拠はスペースの制約だけではなく、混乱を避けるために積極的に省く場合もあるようだ。(表 66)
- 6) 字幕は原文の情報を減じるだけではなく、むしろ明確にするために情報を付加することもあり、観客の母語や背景知識を考慮し、より明確にしようと試みたものと判断できるものだけではなく、原文の台詞自体に曖昧さや不正確さなどの不備があり、それを補足したと思われる訳例もある。(表 9、62、64、65、67) いわば説明台詞のような役割を字幕が負うことがある。
- 7) スペースのとらない日本語の助詞は、時に英語の 1 文をも表わすことも可能であり、字幕ではその利点が最大限に活用されている。(表 52、53)

Pedagogical Implications

字幕は教育的に言えば学習を促進させる材料として本稿の冒頭で紹介した

授業報告にあるような活用法は大いに注目に値する。洋画を活用したいずれの教授法を取り入れるにしても指導する側は、本研究で明らかになった類型を周知しておけば指導上有益であろう。

字幕翻訳者が作り上げる字幕は、学習教材としては宝庫であり、その完成のプロセスに疑似体験することで、英語習得が促進されるものと考えられる。本研究で明らかになった字幕の類型を当てはまることにより、その背後にある訳者の配慮を憶測したり、時に驚嘆させられ、時に批判することで目標語だけではなく母語のセンスをも磨くことが可能となるだろう。

従来、英文和訳の学習効果が疑問視され、直読直解が強調されてきたが、ここでいま一度和訳の意義を再評価してもいいのではないだろうか。教える側は映像、音声と共に有益なシーンを厳選し、学習者に提示させ、字幕を作成させる活動を授業に導入してはどうだろうか。

字幕翻訳の場合、直訳ではなく、あくまでも明確さを追及するという姿勢は、相手の言うことを100%理解しなくとも字幕に見られる簡略や省略があっても十分意思疎通が可能であり継続できるという安堵感を学習者にもたらし、英語学習に対する心理的な障害の壁を少しでも低くしてくれるのではないだろうか。情報の重要性に応じて正確さより、容易さを追及した字幕成立のプロセスに熟知することが、英語学習者にとって発話の意味をおおよそ理解しながら対話を維持する技能を養成するのに役立つものと信じる。

註

- 1) 「日本語母語話者 (L1 Japanese speaker)」は、「日本人」とは異なった実体として本稿では使用する。「日本人」の中には国籍は日本国であるが母語が日本語でない者も含まれるからである。一方、「日本語母語話者」は、母語が日本語である者を意味し国籍は問わない。ゆえに、言語教育、言語習得の文脈の中では厳密に区別されるべき用語であり、注意を払うべきである。
- 2) 一般の教材のように学習者用に語彙、構文、内容などを調整された教材ではなく、洋画、英字新聞、英文雑誌、ニュースなどのようにネイティブスピーカー向けの生の教材のこと。
“authenticity”という言葉自体は以下のように定義されている：
“being real, actual” (The Oxford English Dictionary: Second Edition, Vol.1,

1989: 797).

“reliability and trustworthiness, stressing that the thing considered is in agreement with fact or actuality” (Webster’s New World Dictionary of American English: Third College Edition, 1988: 92)

“the degree to which language teaching materials have the qualities of natural speech or writing” (Richards, Platt and Platt, 1992: 27)

- 3) アメリカ映画協会 (MPAA) に加盟しているディズニー、ワーナーブラザーズ、20 世紀フォックス、ユニバーサル、パラマウント、ソニーピクチャーズ、MGM の 7 社をさす。
- 4) 著者が毎春授業で行っているアンケート調査でも邦画に対する学生の評価は「つまらない」「迫力がない」「派手さが無い」「スケールが小さい」「面白くない」「パッとしない」が大半を占めている。
- 5) アーノルド・シュワルツネッガー主演の“EARSER” (1997) の作品の中で、彼が偽造身分証明書を指さす時に“that”を用い、それに対して字幕は「これ」となっている。画像からは実際に指で触れながら“that”と言っているのが日本語では「こ」の距離にあるに違いないが、このようなシーンに触れると英語の“that”の概念の説明が困難に感じる。
- 6) closed caption system 専用デコーダーをビデオとテレビの間に接続することによって画面に英語字幕を写し出したり、消したりすることができるシステム。元来、米国で耳の不自由な人のために開発されたものだが、外国語教育でその利点が注目され、近年多くのビデオソフトがこのシステムに対応している。日本で市販されている対応ソフトは、日英のキャプションを同時に提示することも可能で、洋画を通じた英語学習の環境を著しく向上させた。
- 7) WWW 上の米国のアマゾン・コム社の映画資料サイト (us.imdb.com/)
- 8) 読売新聞全国世論調査
調査日＝平成 10 年 12 月 12、13 日 対象者＝全国の有権者 3,000 人 (250 地点、層化二段無作為抽出法) 実施方法＝個別訪問面接法 有効回収数＝1,968 人 (回収率 65.5%) 回答者内訳＝男 47%、女 53% ▽ 20 歳代 15%、30 歳代 16%、40 歳代 21%、50 歳代 19%、60 歳代 18%、70 歳以上 11% ▽ 大都市 (東京区部と政令市) 20%、中都市 (人口 10 万人以上の市) 38%、小都市 (人口 10 万人未満の市) 19%、町村 23%
- 9) “fruit”のように分類上広義の語を上位語 (superordinate)、“apple”のようにより細分化された語を下位語 (hyponym) といい、この語義の上下関係は“hyponymy”と呼ばれる。
- 10) 説明台詞とは、観客に話の筋や人間関係などを理解してもらうために台詞に入れる情報だが、新田 (1994) によると映画の台詞の特徴であり、現実の英語と違うものであるという。彼は他に、台詞の特徴として以下の 6 点を指摘している。
1) 上映時間の制限から、実社会で存在する「無駄な会話」「要点の見えない会話」がない。2) 専門用語は専門的な匂いが残る程度に制限し、後はすべて観客がわかるレベルに落としている。3) 台詞は登場人物が自然と口に出したものではなく、物語を進展させるように計算されている。4) 日常生活では使わないような芝居がかった台詞、大げさな台詞になりがち。5) 俗語や卑語は軽い気持ちで使い、軽く流す場面が半数以上だが、それは作者が考えた俳優の反応であって実社会では同じであるとは限らない。

- 11) “S.E.T.I.”=search for extraterrestrial intelligence (地球外知性探索計画)
- 12) 談話標識(discourse marker 談話の中で使用される“well” “so” “yeah” “oh” “you know” “I mean” のような話し手の心情を表わす語句。スムーズな談話を構成する上で重要な役割を果たすが、それを教えるのは困難であると考えられている。McCarthy & Carter (1994) はその点、以下のように述べている (p.68)
- One of the difficulties that language teachers face with features such as discourse markers is how does one ‘teach’ such a feature in a natural way, not only given that they are almost subconscious items for speakers, but also given that they seem to be so central to natural discourse?
- また、Schiffrin (1987) は、discourse marker を“sequentially dependent elements which bracket units of talk” (p.31) と定義し、“oh” “well” “and” “but” “or” “so” “because” “now” “then” “I mean” “you know” を例にあげ解説している。

REFERENCES

- 岩崎光洋 (1996). 『洋画ビデオで学ぶ英語術』 東京：ワニブックス
- バベル・プレス編 (1998). 『初めて学ぶ人のための映像翻訳超入門』
- 角山照彦 (1995). 「クローズド・キャプションを活用した字幕翻訳シュミレーション」映画英語教育研究第1号 pp.13-22
- 小林敏彦 (1999). 「キャプション付き洋画ビデオを利用した英語授業」小樽商科大学言語センター Language Studies 第7号 pp.21-40
- 小張敬之 (1996). 「日本語字幕・英語字幕付きビデオ教材とビデオ教材の聴取理解に及ぼす比較研究」映画英語教育研究第2号 pp.11-21
- 窪田守弘 (2000). 「映画字幕の翻訳分析」映画英語教育研究第5号 pp.3-13
- 間中和歌江 (2000). 「字幕と英文台詞の違いを利用したリーディングの授業」映画英語教育研究第5号 pp.47-57
- McCarthy, M. R. Carter. (1994). *Language as Discourse: Perspectives for Language Teaching*. Essex: Longman Group UK Limited.
- 西森マリー (1993). 『字幕のむこうの別世界』 東京：NHK 出版
- 西尾実他編. 『岩波国語辞典第五版 (1994)』 東京：岩波書店
- 新田晴彦 (1994). 『スクリーンプレイ学習法』 名古屋：スクリーンプレイ出版
- 太田智郎 (1998). 『映像とコミュニケーション』 東京：れんが書房新社

岡山徹 (1998). 『映画でスラスラ日常英語』 東京：小学館

Richards, Platt and Platt (1992). *Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics*. Essex: Longman Group UK Limited.

Schiffrin, D. (1987). *Discourse Markers*. Cambridge: Cambridge University Press.

清水俊二 (1987). 『映画字幕五十年』 東京：早川書房

清水俊二 (1992). 『英語字幕は翻訳ではない』 東京：早川書房

Murray, J.A.H., H. Bradley & W.A. Craigie (1989). *The Oxford English Dictionary: Second Edition, Vol.1*. Oxford: Clarendon Press.

戸田奈津子 (1994). 『字幕の中に人生』 東京：白水社

吉成雄一郎 (1994). 『映画を英語で楽しむための7つ道具』 名古屋：スクリーンプレイ出版

Neufeldt, V. (editor in chief) (1988). *Webster's New World Dictionary of American English: Third College Edition*. Cleveland: Simon & Schuster, Inc.